



今回は、「西條誌稿本」「江嶋家文書」の郷土資料の魅力を紹介しました。最終回は、図書館が所蔵する他の貴重資料について紹介します。まだまだ、お宝があります。

1) 「近世絵画」 - 豪放な墨竹画 -

近世、吉田蔵澤ほかの文人画 11 点を紹介、蔵澤の「墨竹画」は松山の宝といわれ、昔から珍重されてきました。正岡子規や夏目漱石もこの「墨竹画」をこよなく愛しています。



【墨竹画】

右の画は、蔵澤 77 才の時自然の生命の雄大な姿を余すことなく描いた彼の芸術の真髓を伝えた作品です。「句碑めぐり」でも、紹介しています。

「冬さひぬ蔵澤の竹明月の書」子規

「蔵澤の竹を得てより露の庵」漱石



【多田満中トップペ - ジ】



幸若舞とは？

奈良絵本とは？

満中とは？

2) 「俳家先哲墨蹟鑑」

慶応 4 年、夢酔園なる人物の落成にあわせて製作した、短冊張り合わせ帳(手鑑)。其角、嵐雪、去来など江戸期の俳人の短冊 4 4 点を紹介。



ふけ行や雪に影おく雪の松

(去来)

幸若舞は、中世から近世にかけて、能と並んで武家達に愛好された芸能です。幸若舞に「敦盛」という曲があります。

・人間五十年、下天の内を比べれば、夢幻の如くなり・

織田信長は、「敦盛」のこの一節をとくに好んだといわれています。

3) 「多田満中」

満中は、幸若舞曲を代表する一曲です。現存諸本は語り本系と読み本系のものに分けられますが、本絵巻は読み本系に属する一伝本と考えられます。読み本系のものには、奈良絵本の体裁のものが十本近く知られていますが、絵巻は本絵巻以外になく、成立は江戸中期中頃とされています。

奈良絵本とは、挿絵入りで書写された御伽草子です。御伽草子とは、室町時代から江戸時代前期に流行した短編の物語集で、現在のところ、約 400 編の作品が現存しています。作者はほとんど不明です。

それらの中には、「浦島太郎」や「一寸法師」等、今日まで読み継がれている作品もあります。

清和天皇の子孫である多田満中は、源の姓を初めていただき、武士としては並ぶ者のない人物でした。

この満仲は、末の子の美女御前を寺に修行に出します。

しかし、美女御前は修行をしないで遊んでばかり

怒った満仲は、家来の仲光に美女御前の殺害を命じますが、・・・

続きは 愛媛大学附属図書館電子図書館でご覧ください。翻刻，現代語訳，テキスト版があります。

4)「堀内文庫」

堀内文庫は、松山市興居島の海運業及び庄屋であった堀内家三代の近世国文学資料です。親子三代(明和4～明治16年)にわたる源氏物語研究を中心に安土桃山から明治初期までの国学、詠草などの写本・刊本があり、伊予地方における中・近世文学研究の水準の高さを示す貴重な郷土資料です。

特に、本文庫の『葵の二葉』『底の玉藻』は、昌郷により始められ匡平が集大成した源氏物語研究です。電子図書館では、目録を公開しています。

『葵の二葉』 源氏物語作中の人物を，光源氏と頭中将，夕霧と柏木，匂宮と薫，空蝉と浮舟，六条御息所と夕霧といった具合に，二人を対にして論評したもので，作品名の「葵の二葉」もそこからの命名です。



【葵の二葉 十八巻】

5)「米山日記」

嘉永元年から明治30年までの、伊予松山の神官・書家、三輪田米山の日記。安政の大地震についての記述などの自然現象から、食物、衣服、産業、生活形態まで、幕末から明治にかけての地方史を知る上で第一級の資料です。

米山は、奔放自在な書を残した書家としても有名です。電子図書館では、彼の年譜

及び202冊の目録を公開しています。

【安政の大地震(1854)】



六日朝
一天無雲
日光明
昼夜地震
城下も人家破損
多 道後の湯などとまる

6)「鈴鹿文庫」

卜部神道家の鈴鹿三七氏(京都市左京区)の旧蔵書。鈴鹿家が中世以降の神道家であるために蔵書の中心は神道関係ですが、物語、随筆、日記類を含んでおり、国学関係の書写本、板本、複製本、活字本、軸物、箱物等7,432点からなります。



【鈴鹿文庫トップページ】

7)「日次紀事」



京都を中心に記した年中行事の解説書。日々の行事を節序・神事・公事・

人事・忌日・法会・開帳の順に表し、閏月や臨時の行事は年末に収めています。行事の実情・風俗・人情・言語などを多彩に盛り込んだ史料です。

8)「鈴鹿本大和物語」

大和物語の流布本は二条家系統であるのに対して、本書は異本系の一本にあたり、天理図書館蔵の「御巫本」とごく近い関係にあることが認められています。正確な書写年代は不明で、室町中期以後の書写にかかるものとみられています。